

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100436		
法人名	((有))西日本マインド		
事業所名	グループホームこのみ		
所在地	和歌山県和歌山市布引935-1		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	平成23年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokouhou.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3090100136&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとり思いに寄りそうケアに重点を置き生き生きと自分らしい生活ができるよう支援が行われている。年2回の家族会には大勢の家族が参加し、レクリエーションも一緒に参加されたりしながらコミュニケーションを図ったりしながらより良い環境作りが行われている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、開設5年目ですが法人内の他施設での経験のある職員も多く、職員会議では活発に意見交換がなされ、利用者らしい楽しみのある生活が支援できるように取り組んでいます。利用者が地域の中で安全に安心して暮らせるようにと思いが込められた理念が掲げられ、職員の関わりの中で利用者が安心して思いを伝えてもらえるような関係作りにも努めています。役割や仕事を持ちやがいに繋がっている方や共用空間の中で安心して居場所があり穏やかに過ごされる方など、個々の好まれる暮らし方ができるように支援しています。また、家族との関係も良好であり家族会の後の運営推進会議では多くの参加が得られ、普段の様子をスライドで観てもらったり意見交換ができ共に利用者を支え、笑顔が多くみられ活気のあるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼時に皆で理念を唱和している。	併設する小規模多機能型事業所と共に、地域密着型サービスとしての理念が作られています。地域の中で安全に安心して暮らせるようにと思いが込められており、リビングに掲示し毎日唱和することで、職員に意識し日々のケアが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者が散歩の途中で挨拶を交わされたり、地域の住民のボランティアや近くの幼稚園児の訪問など、地元の人々と交流することに努めている。	日々の散歩では出会った方々と挨拶を交わし、近所付き合いをする中で徐々にホームの理解が得られるようになってきています。アニマルセラピーや大正琴等のボランティア等の受け入れ、交流が図られています。自治会の加入には至っていませんが、今後徐々に交流を深めていきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会の後、運営推進会議中、地域の方々に認知症の方への理解や事業所の支援への取り組みを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族会への後の年2回に留まっている。地域の方の家族様の参加のみにはなっているが、報告や話し合いは成されている。	運営推進会議は、民生委員や幼稚園の園長に参加を呼びかけ、家族会の後に多くの家族の参加を得て開催されています。年2回開催し、半年間の活動をスライドにして観てもらいながらホームの活動報告を行い、意見交換の機会を持っています。	2か月に1回の運営推進会議の開催と地域包括支援センター職員又は市の担当者の参加が得られるよう、日程の調整や担当者へ働きかけ、更に有意義な会議になることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは認定調査時のみになっているが、認定の中でも事業所の実情サービスの取り組みを積極的に伝えている。	ホームとして相談事項がなく、手続きの際に市役所に出向く事はありますが、市の担当者との連絡のやりとりは十分に行われていません。	市町村と連携を取りながらの運営が望まれます。運営推進会議の報告を兼ねて、情報交換の機会を作られてはいかがでしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠など含めて、拘束のないケアを目指し、ミーティングなどに意見交換し、スタッフの意識を高めるよう取り組んでいる。	利用者の自由な生活を支援することを大切にしており、誘導の方法や声のかけ方等拘束に繋がるような対応をしていないかをミーティング時に話し合っています。身体拘束についての外部研修に参加した職員が、全職員に伝わるように伝達研修を行っています。エレベーターも利用者が自由に使える、玄関の施錠もしておらず、外に行きたい方には職員と一緒に寄り添い出掛けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、着替え等、全身チェックを心がけ、アザ等を見つけた場合、報告し合っている。		

グループホームこのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、情報提供し、青年後見人を活用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方が納得されるまで何回もカンファレンスを設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、苦情等は、訪問時にできるだけ意見を伺っている。年2回の家族会には意見交換の場を設けられ、それらを運営に反映されるよう努めている。	日々利用者自身が思っていることを言えるような関わりを心がけており、家族の来訪も多く直接意見や要望を聞く機会があります。家族会では多くの家族の参加があり、様々な意見が出されたり思いを言い合える機会となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行い職員の意見など交流の場を設けている。	全職員が参加するミーティングでは、活発な意見交換が行われています。職員の提案から1泊旅行や遠足の提案があり、社長の許可を得て実現するなど、職員が意見を出しやすい環境があり、運営に反映できる組織体制が整えられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、職員の提案、意見等を取り入れ実績に向け努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員や一人ひとりのスキルアップにむけて法人内での研修に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて当事業所のサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階ではスタッフが常に寄り添い、不安、困り事を傾聴共感できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも、初期段階での思いを傾聴、共感、共有できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、それぞれの思いを感じ、必要なサービスを情報提供し、利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを大切にし、傾聴することで気持ちの共有に努めている。昔の歌を、一緒に歌ったり洗濯物をたたんだりしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方とは、情報交換し本人の思いを大切にしながら信頼関係を築いていけるよう支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に思い出のある場所に行ったり馴染みの方に会っている。	散歩や外出の際に自宅に行ったり、希望にそって墓参りに出かけることもあります。週末に自宅に外泊したり、以前から行っていた美容院や喫茶店に行くなど、馴染みの関係が継続できるよう支援しています。また、友人や以前の同僚などの来訪もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、会話を楽しんだり、歌を歌っている人、手をたたいたり、一人ひとりの表情を大切に良い環境作りができるよう支援に努めている。		

グループホームこのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後、本人、家族が落ち着かれるまで来所訪問させて頂いております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	仕事をしたいといわれる入居者には木材などを切って組み立てて頂いたり、家事をしたい方には洗濯物をたたんで頂いたり、一人ひとりの希望、想いに寄り添う支援を行っている。ただ、言葉の理解力が困難そうな方には検討材料とするための記録が不十分な面が見られる。	利用者が言ったことがケアの中で反映されることで、更に言ってもらえるように取り組み、利用者が喜怒哀楽の表現を自然にされ、職員は思いの把握に繋げています。把握の困難な利用者には、日常生活を共にする中で、自然に洗濯物をたたんだり掃除機をかける等、何がしたいのかを知ることもあります。把握したことを記録に残すことが不十分であり、今後の課題としています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方から聞いて本人の詳しい情報を元に対応している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で一人ひとりの表情を大切に傾聴する中で気持ちの共有に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの中で寄り添いながら本人の思いや家族からの情報を元に職員の意見も取り入れながら介護計画を立てている。	計画作成担当者が中心に、利用者や家族の思いを基に申し送りやミーティングで職員の意見を聞き、サービス担当者会議を開催し介護計画が作成されています。現状に即している計画となっているか毎月モニタリングを行い、6か月ごとに見直しを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングは毎月行っているなのでその都度、職員間で情報交換をして介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者とマンツーマンの外出、遠足、旅行などのサービスの多機能化に取り組んでいる。			

グループホームこのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、消防教育機関等、訪問して関わりを持って頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回往診にきて頂いたり通院されたりしてその時々の状態を伝えています。	入居時にホームの協力医や往診してもらえる医院などの説明を行い、家族にかかりつけ医を決めてもらっています。それぞれのかかりつけ医の往診を受けたり通院できるように支援し、24時間連絡の取れる体制が築かれています。歯科についても利用者に合わせ通院したり往診を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんの変化など気づいた点など看護士に伝えて早めの処置が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時などは来院し安心頂けるよう支援し、医療機関とは情報交換を密におこない早期退院に向け受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について家族の方と話し合いを行い、想いに寄り添えるよう事業所も医療との連携に努力しています。、本人の状態の変化に応じ、支援のあり方を、家族、医師、看護師と随時話し合い、事業所・医療と連携を持って支援に取り組んでいます。	看取りの支援を行うとのホームの方針があり、家族にも説明しています。重度化し終末期となった利用者には、ホームでの看取りを見据えて往診対応できる医師への変更や訪問看護を検討し、家族とも話し合いながら、対応しています。利用者の状況に合わせ、急変時の対応の確認をしたりケアの統一を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの中で話し合ったり連絡方法の初期対応など落ち着いて実践できるよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓令は行っているが地域との協力体制までは築けていない。	年に2回消防署の協力を得て、併設する施設と共に避難訓練を行っています。日中を想定した避難誘導の方法や初期消火の訓練を行っています。夜間想定での訓練や地域への働きかけは行えていません。	職員の数の少なくなる夜間帯の避難訓練や、地域との関係作りの進捗中で協力体制についての話を行うなどの働きかけをされてはいかがでしょうか。

グループホームこのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	指示的な対応をしないで受け入れの対応をするよう職員一同心がけています。	入職時に認知症ケアの資料を渡し、尊厳を守りプライバシーに配慮したケアについて学んでもらっています。時折ミーティングでは利用者へのケアが自尊心を大切に行われているかを振り返る機会を作っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんとのコミュニケーションを大切にして共感し合い常に受け入れの体制作りにも努め想いを伝えやすい環境づくりに努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	徘徊する人には積極的について行き、思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出される時は化粧をされたり髪の毛を染めたりとその人らしい身だしなみできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時は、配膳等の手伝い食事の後の食器等を流しまで持ってきて頂いたり出来る事は進んでして頂いています	職員は利用者の好みを把握し、献立を立てています。配膳や味付けなど以前に行っていたことをホームでもできるように支援しています。個々の利用者が楽しく食事できるようにテーブルの位置を考慮し、職員も同じ食卓に着き会話しながら楽しい時間となるよう支援しています。また、おやつは食べたいものを聞いたり喫茶店に出かけており、利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外出時、入浴時の後には水分補給をして頂いて最低1日4回は水分補給を心がけている。自分らかいってくださる人もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯をされている人が多いのでうがいをして頂いたり食後できる方には歯磨きをして頂いています。		

グループホームこのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄ができるようスタッフが時折声掛けをしたり、利用者様の行動パターンを把握し、その都度声掛けを心がけてトイレでの自立に向けて支援している。	個々の排泄パターンに合わせた時間にトイレに誘導し、できる限り失敗のないように支援しています。尿意を訴えられない利用者には、仕草や行動を観てトイレに誘導しています。また、夜間もオムツにせずトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日何回かに分けてこまめに水分補給をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて週2回ほど入浴されています。	利用者が気持ちよく入浴できる時間帯を検討し、現在は午前中に入浴の支援しています。曜日は決めず個々の体調や希望に合わせて入浴してもらい、拒否傾向の利用者も職員の言葉かけの工夫で入浴できています。季節の菖蒲湯やゆず湯も楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に外出されたり散歩に行ったり活動して頂き夜間にはよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自個別に薬を分け、服薬時にはその都度確認し服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりできることは進んでして頂いて、時々、外出、散歩に出かけ気分転換して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回の遠足と旅行に行ったりすることでコミュニケーションがとれたり普段見られない表情や行動がみられ新しい発見がある。	毎日近隣の遊歩道に散歩に出かけたり、ドライブして喫茶店に行く等日常的な外出の支援を行っています。離床できない重度の利用者も玄関先で外気浴をすることもあります。職員の提案から1泊旅行が実現したり、遠出の外出も企画して出掛けています。	

グループホームこのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、散歩に行くときなど自由に買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	台風時には家族のことが心配になり安否の電話をされたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には1年間の行事に参加された写真を貼ったりベランダに出て季節感を味わったり夜も居間で気軽にテレビを見てくつろぎながら過ごされている。	広くゆったりとした共有空間は木の温もりが感じられ、陽のあたる場所には椅子を置き、利用者がほっこりできる場所を作っています。多くの椅子を配置することで、利用者の居場所となったり職員が向き合って座りコミュニケーションの場となり、過ごしやすいよう工夫しています。家族の手作りのぬいぐるみを飾ったり、対面キッチンから食事の匂いが漂い、家庭的な雰囲気があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各テーブルが3個あり、思い思いに好きなおところに座って歌を歌ったり談話をされたり、畳の部屋では時々横になり休まれたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に備え付けのベッド以外は全て私物で本人が使い慣れたものを使用している。昔、使っていた仕事道具などもおいている。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうように説明し、自宅で使っていたタンスや鏡台、椅子、テーブル等を置いたり家族の写真を飾り、居心地良く過ごせる居室を作っています。じゅうたんを敷いたり、仕事で使っていた物を置く等、個々に合わせた居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何でもできることは進んでして頂くようにしている。家事のお手伝い等、その人らしい生き生きと生活が送れるよう心がけている。		